

住吉っ子



おいしい
お茶

わたしの街の

未来の桜プロジェクト

令和6年3月13日

株式会社伊藤園と公益財団法人「日本さくらの会」の協働で取り組んでいる「わたしの街の未来の桜プロジェクト」による桜の植樹がおこなわれました。同活動は、日本のお茶「おいしいお茶」桜パッケージ商品の売り上げの一部を活用して、全国自治体・団体に桜の植樹や保全活動に寄付する取り組みです。

今回、住吉大社の境内、神館の正面門前に桜の品種「エドヒガン」を植樹（通算1407本目）。株式会社伊藤園から関西地域営業本部 兼 関西店舗営業部長の大森孝様、同 関西営業推進部長の西本賀則様に参列たまわり、式典には学校法人東粉浜幼稚園の教務主任の中谷陽香先生の引率のもと、園児70名にも参加いただきました。お絵描きの贈呈や、輪になって「ちようちよう」「ドキドキドン！一年生」を歌いながら、皆で桜の植樹をお祝いしました。春を象徴して愛されてきた日本の桜、未来につないでいっばい咲かせたいものです。

権禰宜 宮嵯俊



一寸法師の碑

令和6年5月5日除幕式
奉納 岡本直之様・岡本左和子様

住吉大社とゆかりの一寸法師の顕彰碑が新たに建立され、境内の種貸社前（北駐車場の北側）にお披露目となりました。



本碑は岡本直之様・左和子様にご奉納たまわり、水江東穹先生には、住吉浦からお腕の舟で旅立つ場面の原画を描いていただき、住吉大社名誉宮司の高井道弘が題字を、背面には和文と英文とで説明文をかかげて、打出の小槌を象った石材に陶板画をはめ込んだ顕彰碑が完成しました。

去る5月5日の除幕式では岡本様ご夫妻、そして水江東穹先生ご夫妻にもご参列いただき、また、大塚オーミ陶業の吉川尚喜様もお立合いの中、碑のお披露目がおこなわれました。岡本直之様には「住吉大社と一寸法師のお話を後世に永く伝えていただき、ご参拝の皆様にも親しまれる碑となることを期待します」とのお言葉をいただきました。



御奉納者……………岡本直之・岡本左和子
原画染筆……………住吉大社絵所預 水江東穹
題字揮毫……………住吉大社名誉宮司 高井道弘
陶板制作……………大塚オーミ陶業株式会社

建碑施工……………株式会社大川石材
背面説明……………住吉大社権禰宜 小出英詞
同英訳文……………岡本左和子
寄進取次……………住吉大社権禰宜 太田光俊

住吉祭の歴史について考える 特別展とフォーラムを開催

堺市博物館 学芸員 宇野千代子

数百年の長きにわたって、住吉大社と堺をつないできた住吉祭。

昨年十一月三日(金・祝)から十二月三日(日)まで、堺市博物館は「都市の祈りー住吉祭と堺ー」と題した特別展を開催いたしました。

特別展では、アメリカのサンフランシスコ・アジア美術館に所蔵される「住吉祭礼図屏風」を日本初公開しました。この屏風は保存状態がよくありませんでしたが、数年前に描写内容のおもしろさが再評価されたのをきっかけとして、京都の文化財保存修理所で修理されることになり、完成後サンフランシスコに戻る前に堺市博物館で展示させていたのだいたという次第です。

「住吉祭礼図屏風」といえば、堺市博物館所蔵の屏風が十七世紀前半の住吉祭を描くものとしてよく知られています。特別展では会場に二つの「住吉祭礼図屏風」が並び、細部まで見比べることができました。

ほかにも、住吉祭の関連資料を約六十件展示しました。住吉大社からは御神輿をはじめ十四件の御神宝をご出陳いただきました。



堺市博物館特別展：チラシ

会期中の十二月三日(日)には、住吉大社吉祥殿を会場として、住吉大社と堺市博物館合同のフォーラム「日本初公開 サンフランシスコ・アジア美術館所蔵『住吉祭礼図屏風』に見る四〇〇年前の住吉祭」を開催し、住吉大社権禰宜の小出英詞氏、サンフランシスコ・アジア美術館キュレーターのローラ・アレン氏、大阪市立美術館学芸課長代理の知念理氏、関西大学教授の黒田一充氏、摂泉堺郷土史研究所所長の吉田豊氏、そして私という六人の登壇者が、それぞれ専門の視点から屏風の描写内容を分析し、住吉祭の歴史について考え、議論しました。後日、フォーラムの内容を記録した報告書を発行する予定ですのでご高覧いただけましたら幸いに存じます。

最後になりましたが、展覧会とフォーラムの開催にあたって、多大なご協力をいただいた住吉大社の皆様に心より御礼申し上げます。



堺市博物館特別展：住吉祭礼図屏風の展示風景



堺市博物館特別展：住吉大社の神宝・神輿の展示風景



合同フォーラム：神武磐彦宮司による開会挨拶



堺市博物館特別展：展示場への神輿搬入



合同フォーラム：関係者による記念撮影



合同フォーラム：小出英詞権禰宜による報告

住吉大社へ 遣唐使船模型を奉納

柳井敏弘



私は山口県長門市出身で、海運会社にて四十年勤務して兵庫県明石市で定年を迎えました。その後は瀬戸の海を眺めながら、のんびり暮らそうと思いい、広島県呉市の倉橋島へ夫婦で移住しました。

倉橋島は、目にするものすべてが興味深く、古い歴史を感じさせる町でした。島の歴史を知りたくなり、倉橋町史などを学び進めると、ここが遣唐使船の建造地であった事実を知りました。その後、平成二十年に住吉大社でご編集の書籍『遣唐使・遣唐使と住吉津』（東方出版）は

大いに勉強になりました。

島に移住して以来、造船所の棟梁である植崎博司様とは懇意にさせていただいておりますところ、八年前に、植崎様が精巧に手作りされた遣唐使船の模型を頂戴しました。

平成三十一年四月、住吉大社にて顕彰碑「遣唐使進発之地」が奉納されました。じつは原画を描かれた水江東穹先生は、画題の遣唐使船を調べられるなかで、私どもに何度もお電話をいただきました。その後も電話や文通などで親しく交流してまいりました。

ところで、万葉歌の遣唐使を詠んだものに、平城の都ゆかし照る難波に下り

住吉の御津に船乗り日の入る国に遣はさる

おしらせ



住吉大社叢書第一巻

すみよっさんの

境内と石燈籠

編集・住吉大社叢書刊行会／住吉大社

価格・一、三二〇円（本体・一、一〇〇円）

発行・清文堂出版 令和5年（2023）3月刊

ISBN978-4-7924-1501-3

海の神、和歌の神として古くから信仰を集めてきた
その歴史と境内、石燈籠から徹底解説する



とあるのが強く印象に残っています。そのため、遣唐使船の進発地である住吉大社に、遣唐使船模型を奉納したいと思いつきながら今日に至りました。

今年（令和六年）一月、永年氣に掛けていた奉納の事について、水江先生にご相談したところ、早速に住吉大社との仲介を取っていただき、去る三月八日、立派な奉納式を行っていただき、永年の念願が実現しました。式後には心温まるおもてなしに敬服と感謝の念でいっぱいでした。

遣唐使船が建造地倉橋島から住吉大社前へ回送され、多くの遣唐使たちが渡唐したこと、住吉大社と倉橋島の古代からのご縁に想いを馳せますとともに、奉納式の当日が私の誕生日と重なったことを思いますと、あらためてご縁の深さを感じた次第です。

このたびの奉納の実現にあたり住吉大社の神武宮司様、ご関係の皆様、そして水江先生ご夫妻様には大変お世話になりましたこと厚く御礼を申し上げます。

（くらはし観光ボランティアガイドの会 顧問／くらはし遣唐使船保存会 会員）

摂津国住吉浦で暮らした一休宗純

矢内一磨



一休朱太刀像（堺市博物館蔵）江戸時代の作品

はじめに

住吉大社は日本の数ある社寺のなかでもたぐいまれな豊かな歴史をもっています。古来より数多くの人々が縁を結んできました。私が昨年一〇月一六日の住吉大社セミナーで「中世の住吉・堺―一休さんが暮らした住吉大社―」のタイトルでお話をさせていただきました一休宗純（一二三九四―一四八一）もその一人です。日本の

駆使して、大活躍する楽しいアニメ番組でした。一九七五―八二年にかけて放送された「一休さん」は、日本だけではなく、のちにタイや中国でも放送されて大評判になりました。

歴史上の人物としての一休宗純は後小松天皇の皇子・「宗純王」であり臨濟宗大徳寺派の名僧で、その権威に屈しない姿、残された戦鬨的な言辞、過激な性愛表現は多くの人を惹きつけます。とても魅力的な人ですが、ここで

お坊さんの中でもっとも人気があるひとりです。とんち話「この橋わたるべからず」「屏風の虎」「朱太刀」が有名ですが、テレビアニメの主人公となったことが、大人気の理由のひとつであるのは間違いありません。かわいい小坊主の一休さんが頓智を

は、住吉大社と一休の関係の一端をご紹介します。

堺と一休

一休は住吉から六キロ南の堺の町と深いつながりがありました。海外・国内貿易で富を蓄えた有徳人（長者）が数多く住む堺は、当時の日本で最も栄えていた都市でした。都市の富裕層に布教をするためにいろいろな宗教者が来堺しており、多くの寺院が建てられ、仏教が盛んなようすは「泉南仏国」と中国風に表現されました。一休も堺をしばしば訪ねたひとりでした。記録に残っているだけでも永享四（一四三二）年・同七（一四三五）年・文明元（一四六九）年・同二（一四七〇）年・同六（一四七四）年の五回が知られています。一休は、明から入ってくる最新の文物を吸収するとともに、救済の対象の外にあった商人や女性信者達といった新しい社会層にも布教活動をおこなっています。

『一休年譜』には文明元（一四六九）年「七月、西兵衛に入る、ただちに瓶原（みかのはら）の慈濟庵に入る瓶原を出て南京に入り、八月二日、わずかに、和泉に入り信宿（二泊）す。五日、泉を出て、住吉浦の松栖庵に僑す、此の地は蓋し卓然和尚の甘棠遺蔭慕うべきを以てし、而して泉津の獠郷居すべからざる也」とあります。応

仁文明の乱の影響で西軍の配下の兵が、一休が住む薪（現在の京都府京田辺市）に入ってきました。戦乱を避けた一休は、瓶原（現在の京都府木津川市）、奈良を経て堺に入り、二日滞在した後、八月五日、住吉に落ち着きます。堺は、「獠郷」（忌まわしく良くない土地の意味）であり、居心地が良い場所ではなく、対して住吉は自分が敬愛する卓然宗立（一三八五・一三八六？）ゆかりの慕うべき土地としています。当時、堺には一休に帰依する人ばかりではなく、一休と対立する禅僧に帰依する人もいました。卓然は大徳寺八世で住吉大社神官家津守氏の出身で住吉第二の神宮寺を改めて大徳寺派の慈恩寺にしました。この頃の慈恩寺の寺主は南栄宗橘。もとは相国寺の僧でしたが、三〇年住吉に居り、一休が南栄の道号を付与した人です。一休にとっては気が置けない間柄であったでしょう。

住吉浦で一休

一休の詩は、漢詩集『狂雲集』に集成されています。近年、芳澤勝弘さんが、新著でこれまでの解釈を徹底的に見直した新しい研究を発表されました。詳しくは芳澤さんの本に譲りますが、芳澤さんの示された『狂雲集』のなかから、一休の住吉浦での暮らしを垣間見てみましょう。まずは有名な

森女との交遊をご紹介します。(一)は芳澤さんが示された読み下し文です。

住吉薬師堂並叙(住吉の薬師堂、並びに叙)

文明二年仲冬十四日、遊薬師堂聴盲女艶歌、因作偈記之(文明二年仲冬十四日、薬師堂に遊んで盲女の艶歌を聴く。因って偈を作って之を記す。)

優遊且喜薬師堂、毒氣便便是我腸(優遊、且喜す、薬師堂、毒氣便便たるは是れ我が腸)

愧慙不管雪霜髻、吟尽嚴寒秋点長(愧慙す、雪霜の髻を管せざることを、吟じ尽くして、嚴寒、秋点長ず)

文明二(一四七〇)年十一月一四日住吉のこの薬師堂(神宮寺)で心のままに楽しむことができたことを喜んだ。盲女の艶歌を聴いて心が乱れおなか一杯である。年甲斐もなく思い出しては心が乱れる。この詩以外にも『狂雲集』には戦乱を避けての住吉浦での森女との親交と生活を赤裸々に語る恋慕の詩が一六首も綴られています。一休の「艶詩」といわれ、多くの文芸作品に影響をあたえました。

歌が達者なこの森女は森侍者とも慈柏とも記録される目が不自由な女性です。遊女ともされている彼女ですが、のちに一休のために小袖を

売って土地を寄進したり、一休の二三回忌法会に香典を寄せたりといった活動をしていたことから、かなり裕福で富を持った人物であることがうかがわれます。正木美術館蔵の「一休宗純と森女図」には、円相のなかに描かれた半身の一休が画面上に画面下に上置に座した森女の姿が描かれています。森女の傍には杖と鼓が配されています。二人の縁の深さを表現した作品です。

また、紹固(しょうこ)という幼い女の子も住吉浦で一休の傍にいました。

正月晦日「紹固御喝食が翫する所の造漁船に題す」

題紹固御喝食所翫造漁船(紹固御喝食が翫ぶ所の造漁船に題す)

不知誰氏緑蓑衣(知らず、誰が氏の緑蓑衣なるかを)

回棹是行耶又帰(棹を回して、是れ行くか又た帰るか)

小児手裏江烟雨(小児が手裏、江烟の雨)

他日春帆万里飛(他日、春帆、万里に飛ばん)

文明二年正月晦 東海純一休戯れに道う

うき世をば、あやつり物と思ふぞよ、おき

あい人の、あやにくの舟

紹固喝食

四歳女兒歌舞前(四歳の女兒歌舞の前)

約深難警旧因縁(深くして警め難し、旧因縁)

棄恩入無為手段(棄恩入無為の手段)

座主作家誰是禪(座主作家、誰か是れ禪)

文明三(一四七一)年五月、紹固喝食には「堅嶽」という号を与えています。

紹固は長じて多くの金銭を一休に寄進をしています。おそらく高貴で富裕な系譜の女性であつたと思われます。

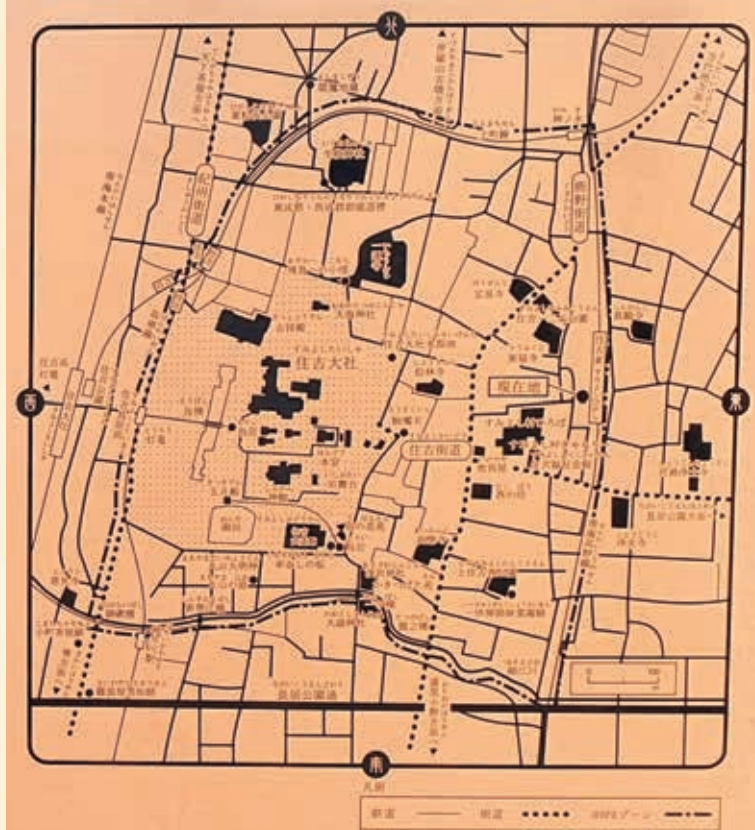
この他にも「乙石」という幼い娘も出てきます。住吉浦の一休の周りには、高貴な女性が戦

乱を避けて集まっていたといえるでしょう。

住吉浦の一休の痕跡―床菜庵―

文明元(一〇(一四六九)七八)年の間、一休は、京、薪、堺、そして住吉を転々としていますが、そのなかでも住吉は戦乱を避けて安定した拠点であつたことは間違いありません。文明八(一四七六)年になると一休は親しい尼崎広徳寺の柔中宗隆(大徳寺第四四世)を迎えるための庵を住吉大社の南東にあたる野菜畠の空き地に造りました。現在の南海高野線

名所旧跡案内図



南海高野線住吉駅西側の案内図

住吉東駅の付近です。当時、住吉大社は、広大な境内地を有していました。敷地はその一部に含まれていた可能性もあります。結ばれた庵は、床菜庵と名付けられました。宋代の臨済禅の僧・黄龍慧南の「鐘楼上念讚」「床脚下種菜」に因んだ庵号です。選ぶことなくどこであつても修行の場所になるという意味です。床菜庵の遺構は現在に残っていません。上住吉西公園に床菜

庵跡を記念する標柱石と説明板が設置されています。床菜庵とともに、多香軒という寮舎も設けられました。ここで一休は戦乱を避けて生活します。一休は暑さが苦手でしたので、住吉浦でもやや高台で風通しが良いこの場所を気に入って過ごしたのでしょうか。

文明一〇（一四七八）年三月一二日八五歳の一休が住吉から薪へ移ります。薪酬恩庵が、一休の終の棲家となるのですが、ここへも森女や紹固はついていきました。



上住吉西公園

一休が去り、そして亡くなった後、床菜庵はどうなったのでしょうか。それは堺海会寺住職を勤めた季弘大叔（一四二一〜八七）の日記『蔗軒日録』の世界に垣間見ることができます。『蔗軒日録』は中世界の基本文献として知られています。

一休が世を去って三年経った文明一六（一四八四）年卓然宗立の百年忌が慈恩寺で営まれます。『蔗軒日録』によると堺から季弘も参加しています。その際に季弘は床菜庵を訪ね大燈、靈山、言外、



床菜庵の標柱石と説明板（上住吉西公園）



重要文化財・酬恩庵本堂

華叟、一休五人の御影(肖像)を見ています。立
畠敦子さんのご研究によるとそれらは現在も
残っており、出光美術館が所蔵しています。

一休門下が集まる酬恩庵評議に、酬恩庵、大
徳寺内の真珠庵とともに床菜庵は代表を送って
評議を構成しますが、床菜庵からの参集の記録
は天正二(一五七四)年で終了します。江戸時代
以降も寺院としては存続していましたが、これ
以降は独自の運営ではなく、真珠庵の下につく
形になっていったと思われます。

このように一休が居なくなつた後も床菜庵
は、彼を慕う人たちの手で護られていったの
です。

参考文献

- 矢内一磨『一休派の結衆と史的展開の研究』(思文閣出
版 二〇一〇年六月)
- 伊野孝行『となりの一休さん』(春陽堂書店 二〇二二
年三月)
- 飯島孝良『語られ続ける一休像(ペリカン社 二〇二二
年七月)
- 芳澤勝弘『一休宗純『狂雲集』再考』(春秋社 二〇二三年
四月)
- 立畠敦子『出光美術館蔵床菜庵伝来作品にみる一休宗
純の行状』(『出光美術館研究紀要』二九号 出光美術館
二〇二四年三月)

本殿改修工事竣功奉告参拝

―鎮座地― 兵庫県丹波篠山市今田町黒石五六六―二

4月20日(土)黒石住吉神社の宮守、藤本嘉彦様ご参拝、同神社の本殿改修工事が完了したことを住吉大社に奉告されました。

私たちの氏神でいらっしゃる住吉神社が鎮座する旧黒石村は、古くは丹波国多紀郡の住吉社領小野原荘・東大寺領櫟原荘が混在した地で、近世には黒石村、明治には近隣と合併して今田村、戦後は今田町となり、現在は篠山市をへて丹波篠山市となっています。

そのご鎮座の年代は不詳ですが、江戸初期に小野原住吉神社(同市今田町上小野原)より分祀したと伝えられ、現在まで地元住民の氏神様として信仰を集めています。

近年、享保5年(1720)再建の社殿は老朽化が甚だしく、そこに平成29年(2017)の台風による倒木で屋根を損壊したこともあり、自治会と整備委員会を起ち上げて再建改修工事を開始しました。約4年間の工事をへて、令和2年(2020)10月11日に竣工しました。立派な御神殿の落慶には只々感謝感激しています。その後、ご本社様に奉告の参拝をと志しつつも、コロナ禍のために延期となり、今回の念願の御礼参りが叶いました。





奉納能と能面奉納

すみよし反橋能実行委員会



毎年、奉納能を開催いただいておりますが、今年も住吉大社の御鎮座を奉祝する卯之葉神事に先立ち、当日の午前に石舞台(重要文化財)の上で能「翁」面掛式の奉納がありました(5月3日)。すみよし反橋能実行委員会が主催で例年ご奉納いただいておりますが、本年は世話人の能楽師山中雅志氏のご協力により能面「翁黒式尉」(坂井孝氏作銘「梓屯」)を当社にご奉納となり、同会会長の氏田耕吉氏をはじめ皆様のご参列のもと奉告祭を執り行いました(5月20日)。



台風による倒木が長床を直撃
(平成29年10月)



私は平成22年(2010)4月に黒石自治会から宮守を依頼されて現在に至ります。神職不在の神社ですので、私が毎月の月初めに参拝し、本殿と小宮さん15前に供物をあげ、大祓詞を奏上して氏子の安全祈願を拝んでいきます。過疎もあって住民の参拝も少なくなりましたが、私は宮守を天職と受け止めて精進してまいりたいと思います。

黒石住吉神社 宮守 藤本嘉彦

住吉さんと太閤さん 第八回

——西洋の秀吉関係絵画群をめぐって（下）——

就実大学講師 竹内 洪介

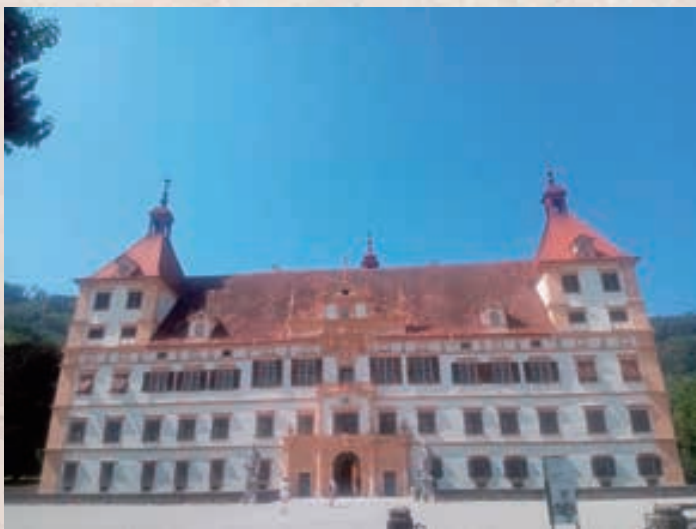
住吉大社と豊臣秀吉——どちらも古くから大阪で愛され、親しみを込めてそれぞれ「住吉さん」「太閤さん」と呼ばれた存在です。ここでは、江戸時代に流布した秀吉の伝記的資料を中心にして、そんな「住吉さんと太閤さん」の意外なかかわりを探ってみたいと思います。

幼少期に抱く将来の夢というものは、その夢が叶うか否かに拘^{かか}わらず、往々にしてほほえましいものです。みなさんは子供の頃、どんな将来の夢を思い描いていましたか？ 宇宙飛行士、パイロット、警察官、学校の先生……といった、ある程度実現可能なものだったかもしれませんし、ウルトラマンや仮面ライダーのように、今となっては荒唐無稽としか思えないものだったかもしれません。恥ずかしながら私の夢は、「大阪城の城主になること」でした。純粹無垢な小学一年生の頃、柴田鍊三郎の『豊臣秀吉——戦国統一の

英雄』を読んで以来、豊臣秀吉は私のヒーローでした。きつとそこから、こんな荒唐無稽な夢を抱くようになったのでしよう。子供の頃は大阪城に行くことがなによりも嬉しいイベントでした。

その結果、今になっても毎年数度は大阪城を訪れ、その上豊臣秀吉を専門とする研究者になつてしまいました。『豊臣秀吉——戦国統一の英雄』の解説を担当された桑田忠親氏の論文が、私が書いた最初の論文で主資料となつていることや、柴田鍊三郎が生まれた岡山で教鞭を取っていることも考え合わせると、夢という

のは叶わずとも恐ろしいものだ」と痛感してしまいます。もちろん私ならずとも、住吉大社になじみがある読者の皆さんでしたら、きっと一度は大阪城に行かれたことがあるでしょう。地下に眠る豊臣時代の石垣、それを徹底的に破却して建てられた徳川時代の石垣、その天守台の上に聳え立つ豊臣時代風の豪壮華麗な天守——。個人的には、大阪城はもはや大阪だけでなく日本のシンボルとしても成り立ちうる存在だと思っています。



↑エッゲンベルク城外観。(Schloss Eggenberg / UMJ Graz)

さて、その大阪城が海外の城郭と友好城郭提携を結んでいることをご存知でしょうか。現在三つの城と提携しているようですが、その中でもっともはやく提携関係を結び、大阪城だけでなく住吉大社とも関係のある史料を所蔵しているのが、オーストリアのグラーツ市にある、エッゲンベルク城（二〇〇九年提携）です。

ここに「東洋の間」「日本の間」ともとよばれる部屋があり、そこに描かれた装飾画が桃山文化期の大坂を描いた極めて珍しい屏風絵を解体してはめ込まれたものであることが確認されたのは、二〇〇六年のことでした。以後、関西大学・大阪城天守閣を中心とした研究チーム（この中には住吉大社も含まれます）とエッゲンベルク城との緊密な連携により、たびたび展示企画やシンポジウムが開かれています。とはいえ、やはりエッゲンベルク城内に直接はめ込まれたものということで、本物を直接見ることは難しく、城内の屏風がどのような状態で、どう展示されているのか、実はよくわかりませんでした（確認した限り、この部屋の様子がわかるものとしては、『新発見 豊臣期大坂図屏風』に部屋の一部写真が掲載される程度です）。そこで、二〇二三年の夏、この「豊臣期大坂図屏風」を見るために、一路ウィーンからグラーツに向

かいました。

エッゲンベルク城の「東洋の間」の全景は、ここに示した通りです。これまで先行研究が示してきている通り、エッゲンベルク城の「豊臣期大坂図屏風」は、もと八曲一隻の屏風だったものが一扇ずつ分解されて壁面にはめ込まれたものということがわかります。その間を埋める



←↑エッゲンベルク城内「日本の間」全景。

右写真は窓側。(Schloss Eggenberg / UMJ Graz)



ように配置されているのは現地の画家によって書かれた東洋風の画で（藪田貫「屏風」とヨーロッパ参照）、そのほかにも東洋風の椅子や大型の木箱も設置されています。屏風を繋ぎ合わせると画面はすべて連続し、八曲一隻の屏風として完結します。

連結させた屏風の全貌や各扇面の画像は各種の媒体で確認できますので、ここでの説明は省略します。屏風に関する種々の研究はこれまでその描写に専ら注意したものが多く、主に住吉大社（住吉祭のうちあらにこのおほはらえ荒和大祓神事）と大坂城に注意が払われてきたように思います。特に、大坂城は主だった先行研究でも豊臣期の城郭を描いた類稀なものとして注目され、エッゲンベルク城のパンフレットでも「Ōsakajō-zu-byōbu」（大坂城図屏風）と示されるなど、屏風の中でも目立った存在といえます。とはいえ、先行研究の中にはいくつか説が対立しているような点もあり、まずはその点を簡単に整理しておきたいと思います。

まず、屏風の名称についていえば、屏風が大坂城とその城下にとどまらず、大坂および一部京都の主要な景観を網



↑「豊臣期大坂図屏風」中、住吉大社および荒和大祓神事を描いた部分。(Schloss Eggenberg / UMJ Graz)

羅して描かれ、「洛中洛外図屏風」に類似した構造であることから、多くの説が採用する通り、「豊臣期大坂図屏風」とするのが適切なように思います。また、住吉大社およびその祭礼を描いた部分についていえば、藪田貫氏は「住吉大社から堺を描いた第一扇」とし、第一扇に住吉大社が存するとしますが（前掲藪田論文、黒田一充氏が各扇を詳細に分析して述べた通り、住吉大社は第三扇・第四扇に位置しているとした上で、その行列が第一扇〜第四扇に亘って描かれている、とする説がより正確でしょう（黒田一充「祭祀図の描かれた住吉祭」）。さらに黒田氏は、

現在残っている屏風も、扇（パネル）と扇の境目の建物や柵がうまくつながらない箇所があり、原型のままなのかどうかはわからない。虫食いなどによる破損箇所を取り除き、新たにつなぎ合わせて屏風に仕立て直した可能性も考えられる。

としますが、現地で実際に計測したところ、扇ごとに横幅の長さが異なり、この説の推測通りであることが裏付けられました。それにしても、どうして豊臣期の住吉大社や大坂城を描いた屏風が、はるばる海を越えてグラーツにやってきたのでしょうか。

この問題についても既に研究が進んでいま

す。現在、この屏風は一七世紀中ごろに町絵師によって制作され、一六四三年に輸出されたものと推定されています。屏風はバタヴィアを経てオランダに送られ、そのあとどういふ経路をたどったのかは不明ながら、一七一五年時点ですでにグラーツにあったエッゲンベルク邸に置かれていたと考えられています。その後この屏風はおよそ五〇年間、同屋敷に保管されたあと、マリア・エレオノラによる一七五四〜六二年のエッゲンベルク城改装に伴い、今の「東洋の間」にはめ込まれる形で「改装」されたものと推定されています（以上、前掲『新発見 豊臣期大坂図屏風』参照）。しかしながら、そもそもどうして、オランダに渡ったはずの屏風が、今オーストリアにあるのでしょうか。

これまでこの問題については、屏風が信長の南蛮貿易を端緒としてヨーロッパで愛好され、ポルトガルやスペインで[Biombo]と現地語化して呼ばれていた歴史を踏まえ（榊原悟「海を渡った屏風たち」参照）、「安土城図屏風」など、当時海外に渡った屏風との関係性から読み取ろうとするものが一般的だったように思います。ところが、既に前回で明らかにしたように、ウィーンの国立図書館には王室から伝来した『著名武将伝賛』（別称『著名武将列伝』

ロレンツォ・クラッソ著、一六八三年ヴェネツィア刊）の巻頭に掲載される、秀吉の挿絵を切り抜いたポートレートがあり、オーストリアの「日本趣味」がけっして屏風のみではなかったことが推察されます。屏風だけでなく、典籍も含めてヨーロッパの「日本趣味」を捉えておく必要があるでしょう。

そこで注目したいのが、小川仁氏の説です（小川仁「驚異へ捧げる賛辞」参照）。小川氏は『著名武将伝賛』が日本と縁のないナポリの文筆家によって記されたことに着目し、日本に関係する記事の典拠が一六世紀〜一八世紀前半にかけてヨーロッパ全土で出版された「イエズス会史」であることを推定しています。屏風が伝来した一七世紀は、まさにこのイエズス会史が流布していた時期であり、屏風云々以前に、ヨーロッパ、ひいてはオーストリアで日本熱が高まっていたことが推定されるのです。この推測はオーストリアの隣国、しかも国境からさほど離れていないヴェネツィアで『著名武将伝賛』が出版されたことや、少なくとも一八世紀以前にはオーストリアの帝室にあったと思われる二点の秀吉像からも裏付けられますし、なによりもオーストリアの帝室には秀吉の像と伝わる二点のポートレートだけでなく、イエズス会の年報と思わ

れる書物も伝来しているのです。ですから、一七世紀のヨーロッパにあつては、日本は無論のこと、秀吉に関してもキリスト教の観点から並々ならぬ関心が寄せられていたことでしょう。それが今、複数の秀吉に係する資料がオーストリアに遺されている証左ともなるのではないのでしょうか。

以上、今回は前回の内容を踏まえながら、エッゲンベルク城所蔵「豊臣期大坂

図屏風」を中心に考察しました。余談ながら、この屏風に描かれている住吉大社には反橋など、同社の代表的な建造物がいくつか描かれています。ここには描かれていませんが、実は当時、住吉大社には西塔と呼ばれる豊臣秀頼が寄進した建造物がありました。これは今同社には存在しないのですが、それはなぜでしょうか。次号ではこの疑問を軸に、住吉大社西塔について取り上げたいと思います。

参考文献

- ・ Franziska Elmcke. Ōsakaiō-zu-byōbu. Schloss Eggenberg am Landesmuseum Joanneum.
- ・ 関西大学なにわ大阪研究センター・高橋隆博監修『新発見 豊臣期大坂図屏風』（清文堂、二〇一〇年）
- ・ 小川仁「驚異へ捧げる賛辞——ナポリ随一の文筆家ロレンツォ・クラッソに見る日本像」（『日本研究』第六五集、二〇二三年）
- ・ 関西大学大阪都市遺産研究センター編『豊臣期大坂図屏風の再検討』（関西大学大阪都市遺産研究センター、二〇二三年）
- ・ 黒田一充「祭礼図の描かれた住吉祭」（住吉祭・神輿渡御と堺『所収、二〇一七年）
- ・ 榊原悟「海を渡った屏風たち」（『BIOMBO 屏風 日本之美』所収、日本経済新聞社、二〇〇七年）
- ・ 柴田錬三郎『豊臣秀吉——戦国統一の英雄』（偕成社、一九六〇年）
- ・ 萩田貫「屏風」とヨーロッパ・グラーツ・ローマ・エヴォラ・ライデン」（『なにわ・大阪文化遺産学研究センター 二〇〇八、二〇〇九年）

付記

オーストリアに所蔵される絵画二点および『著名武将伝賛』のイタリア語およびラテン語解説にあたり、ストルティニ・パリデ氏、小林亜沙美氏のご助言を得ました。オーストリア国立図書館調査にあたっては、Ulrike Polnizky氏、Mathias Böhm氏の、エッゲンベルク城調査にあたっては、Paul Schuster氏、Clara Langthaler-Kränki氏の助力を得ました。ここに深く御礼申し上げます。また、本調査にあたってJSPS科学研究費（22K20041）の助成を受けたことを併せて付言いたします。

社務日誌抄

(令和五年二月から令和六年四月分まで)

令和五年(二〇一三年)

一一月

- 一日 朔日祭、岡禰宜以下奉仕。東京都乃木神社御鎮座百年祭、加藤権宮司参列、星野権禰宜随行。大阪市立住吉中学校職場体験学習受入(翌日迄)。朝日新聞、七五三報道。
- 二日 宮中献穀箱奉納奉告祭、(株)金剛組代表取締役社長 多田俊彦氏以下参列。住吉踊保存後援会支部長会議、滝沢権禰宜以下出席。神社庁教化委員会、岡禰宜出席。近畿税理士会住吉支部ボランティア献血、境内使用。宮司以下参籠。明治祭(中祭)。堺市博物館特別展「都市の祈りー住吉祭と堺開催(翌月一七日迄)神宝出展、神武宮司以下初日観覧。静岡市美術館 NHK大河ドラマ特別展「どうする家康」開催(本日より翌月一七日迄)当社所蔵刀剣銘「小野繁慶」(重要文化財)出展。
- 三日 モンゴル秋祭り大阪二〇二三開会式、岡禰宜・宮寄権禰宜出席。四恩学園七五三詣(大阪帝塚山RC)参拝。
- 四日 卯之日祭、加藤権宮司以下奉仕。おおさか都市緑化フェア住吉公園一五〇阪堺電車、小出権禰宜参加。粉浜地区よさこい踊りパレード境内使用。
- 五日 初辰祭、坂野権禰宜以下奉仕。
- 六日 壇使、加藤権宮司・河野権禰宜・青山社務員奉仕(奈良県橿原市雲名梯川俣神社・畝火山口神社)古館神人見学。ドイツ・ベールンガインゲルハイム団体参拝。
- 七日 文化庁・大阪府文化財保護課、文化財防災設備視察。大阪市立清江小学校はぐくみネット事業授業 岡禰宜講師、小山手権禰宜助手。帝塚山小学校どんぐりひろい。月刊「ひととき」撮影。
- 八日 八坂神社宮司 野村明義氏・同清々講社幹事長 今西知夫氏以下参拝。大阪市立三稜中学校職場体験学習受入(翌日迄)。

- 一〇日 五社秋季例祭、川畑禰宜以下奉仕。市戎大国社月次祭、逸見禰宜以下奉仕。関西西北前船研究交流セミナー泉佐野市、神武宮司以下参加。
- 一日 みずほ銀行日本橋小舟町支店 佐藤貴文氏以下、住吉神像(安田善次郎奉納)拝観。
- 二日 装道礼法きもの学院、七五三詣きもの救助隊奉仕。東京大衆歌謡楽団参拝。
- 三日 大海神社月次祭、小出権禰宜奉仕。神宮大麻暦頒布始奉告祭・第九支部会、加藤権宮司以下出席。
- 四日 十五日祭・七五三祝祭、加藤権宮司以下奉仕。靖国神社献穀奉仕。茶道稽古。
- 五日 神稜講秋季例祭・神宮参拝、神武宮司以下参加。升の市打合せ、同実行委員長 矢吹拓也氏来社。大阪市立真住中学校職場体験学習受入。
- 六日 大阪府玩具人形問屋協同組合連合会・大阪玩具人形住吉講講元 熊本和浩氏以下定例参拝総会、神武宮司以下出席。タイ王国NIPPON PAINT 参拝。神宝「古今伝受後御法楽和歌短冊及御箱(後西天皇以下御歴代奉納)」拝観、京都大学名誉教授 藤井讓治氏・同教授 長谷川千尋氏、文化庁主任文化財調査官 藤田励夫氏・同調査官 宮田直樹氏、北野天満宮禰宜 日置春彦氏・同北野文化研究所室長 松原史氏、各調査。大阪シニア大学、小出権禰宜講師。日本経済新聞、大阪書林御文庫講記事掲載。
- 七日 十八日会、神武宮司出席 北野天満宮 高階権禰宜随行。J A大阪市 技術部門農作物品評会、住吉大社賞「授与・農作物奉納式」会長 井波一咲氏以下参拝。大阪木材商住吉講議長 大和秀樹氏以下定例参拝。セレッソ大阪マスケットロビー、境内奉祝行事。堺市博物館特別展講演会、小出奥野権禰宜参加。
- 八日 になやか田邊神馬ウォーク参拝。神社スカウト協議会総会、中野 山下権禰宜出席。吉祥殿ブライダルフェア。
- 九日 海上交通安全祈願祭、加藤権宮司以下奉仕。神社庁教化

委員会、岡禰宜出席。読売新聞、住吉御文庫取材。

二二日 本殿清掃。特殊神饌調製。読売新聞、住吉御文庫取材。(公財)関西・大阪二世紀協会 加藤祐嗣氏来社。

二三日 新嘗祭(大祭)、神武宮司以下奉仕。責任役員 太田重彦氏、御田講・蓬萊講講元 濱田孝氏、J A大阪市代表理事組合 長田中聡氏、(公財)住吉名勝保存会理事 高野伸生氏、(株)伊藤園 西本賀則氏以下参列。住吉踊保存後援会奉仕。

二四日 千早赤阪村立赤阪小学校、社会見学受入。

二五日 堺市博物館特別展講演会、小出奥野権禰宜参加。故長谷川八重子氏(住吉踊保存後援会会長)、神武宮司以下弔問。

二六日 (二財)住吉村常盤会 村内安全祈願参拝、小出権禰宜参加。住吉大社セミナー「住吉大社の森と御田の植物たち」大阪

市立自然史博物館学芸員 長谷川匡弘氏講演。近畿神社庁

連合総会、岡禰宜出席。天王寺楽所雅亮会公演会(天王寺舞楽の呪能)協賛、東野囀託参加奏楽、庄司権禰宜助勢、神武宮司観覧、高階権禰宜随行。熱田神宮学院研修交流会、

万力禰宜・附柴権禰宜出席。

二八日 浅沢社月次祭、高階権禰宜奉仕。熱田神宮学院参拝。大阪

レッドハリケーンズ参拝。初詣警備会議、神武宮司以下出席。我堂八幡宮宮司、故坂野多々志氏葬祭、神武宮司

弔問、高階権禰宜随行。

二九日 岡山県神社庁副庁長 物部明德氏以下参拝。

三〇日 定例清掃。職員会議。大阪府神社総代会・伊勢神宮崇敬会大阪本部理事会評議員会、岡禰宜出席。大阪市立大和

川中学校、職場体験学習受入(翌日迄)。

一二月

一日 朔日祭、神武宮司以下奉仕。

三日 堺市博物館・住吉大社合同フォーラム「日本初公開 サンフランシスコ・アジア美術館所蔵「住吉祭礼図屏風」に見る四〇〇年前の住吉祭」開催(吉祥殿)、神武宮司挨拶、小出権禰宜講師。

四日 住吉警察署歳末特別警戒部隊発隊式、境内使用、神武宮司以下参加。

五日 宿院頓宮常任総代会、岡禰宜以下出席。四天王寺樟蔭忌舞楽、東野囀託奏楽。

六日 住吉区ラウンドテーブル、武田権禰宜出席。

七日 館友神職懇話会、神武宮司出席。大阪市立天下茶屋中学校、職場体験学習受入。御神酒講正月献酒打合会、加藤権宮

八日 司以下出席。館友会大阪支部支部会合、中野権禰宜以下出席。巽神社敬神婦人会神徳講演会、小出権禰宜講師。

九日 北海道小樽市住吉神社宮司 星野昭雄氏以下参拝。住吉警察署協議会、武田権禰宜出席。御田講会合、神武宮司以下出席。港住吉神社会合、加藤権宮司以下出席。大阪国学院通信教育部 祭式助教、岡禰宜助勢。大阪府文化財保護課、防災設備打合来社。

一〇日 生誕百年の田中卓博士に学ぶ集い、加藤権宮司参加。

一〇日 市戎大国社月次祭、川畑禰宜以下奉仕。大阪国学院通信教育部 祭式助教、岡禰宜助勢。

一一日 卯之日祭、加藤権宮司以下奉仕。産経新聞大阪本社(献詠依頼)小出奥野権禰宜訪問。

一二日 初辰祭、加藤権宮司以下奉仕。

一三日 大海神社月次祭、小出権禰宜奉仕。故新堂友衛氏お別れの会、高井名警宮司参列。

一四日 加藤権宮司、福岡県福岡市 筑前國一之宮住吉神社・志賀

一五日 海神社・香椎宮各参拝。大阪港湾局・大阪港埠頭(株)視察

ツアー受入。すみよし反橋能実行委員会、小出権禰宜出席。

一六日 十五日祭、神武宮司以下奉仕。山口県下関市住吉神社例

大祭、加藤権宮司参列。社報「住吉つさん」第四一号発行。

(公財)日本相撲協会手数入奉納打合会、富士ヶ根・阿武

松親方来社、神武宮司以下面談。

一七日 埼玉県さいたま市岩槻区仲町住吉神社・林道町自治会参

一八日 拝。正月奉仕説明会。

二〇日 十八日会、神武宮司出席(西宮神社)高階権禰宜随行。

二一日 海上交通安全祈願祭、加藤権宮司以下奉仕。三ツ矢記念

館住吉神社、小出宮寄権禰宜参拝。

二二日 NHK大河ドラマ特別展「どうする家康」静岡市美術館、

貸出中の刀剣銘「小野繁慶」重要文化財返却。大阪正論

二三日 懇話会総会講演会、加藤権宮司参加、小出権禰宜随行。

二四日 大神神社宮司 井上卓朗氏来社。なにわ七幸会議、滝沢西

角権禰宜出席。

二五日 大阪国学院通信教育部 祭式助教、岡禰宜助勢。吉祥殿ブ

二六日 ライダルフェア。

二六日 堺市博物館特別展「都市の祈り―住吉祭と堺」貸出中の神

宝一四点返却。御田レンゲ時種。

二七日 煤払式、加藤権宮司以下奉仕。自衛消防訓練、自衛消防隊・

二八日 宮司以下参加。本殿清掃。

二九日 毎日新聞・奈良新聞、正月準備風景掲載。

浅沢社月次祭、高階権禰宜奉仕。駐車場事前精算機導入。

NHKラジオ第一「関西ラジオワイド」西角権禰宜出演。
大祓・除夜祭、神武宮司以下奉仕。権宮司就任奉告祭(岡禰宜)。宮司以下参籠、年越。

令和六年(二〇二四年)

一月

- 一日 若水の儀、元旦・歳旦祭(中祭)、神武宮司以下奉仕。初詣※正月三ヶ日参拝約一二八万人)。初詣特別分課実施。正月本殿祈禱、預かり祈禱開始。新年神楽各奉仕。警備本部開設。りそな銀行グループ、南海ビルサービス協力会社等、各清掃奉仕(三日迄)。読売新聞、初詣報道。辞令…住吉大社禰宜 岡康史、住吉大社権宮司に任ずる。能登半島地震発生、反橋一時通行止め。
二日 琴古流尺八美風会奉納演奏。
三日 元始祭、神武宮司以下奉仕。
四日 初卯祭、踏歌神事、加藤権宮司以下奉仕。敷布講新年参拝。初詣関係挨拶、加藤権宮司・武田権禰宜各訪問。
五日 初辰祭(※初辰まいるは二の辰)加藤権宮司以下奉仕。
六日 本日より通常開門。
七日 白馬神事・昭和天皇祭還拝、加藤権宮司以下奉仕。神馬白雪号 杉谷昌保氏・川上正太郎氏奉仕、神馬講講元 河村博史氏以下講員参列。新年献詠短歌選者会。御神酒講講元 池田昭夫氏以下新年参拝。神稜講新年参拝。
八日 今日庵初釜式、神武宮司出席。四本宮並船玉社檜皮屋根防火放水(二〇日迄)。
九日 市戎大國杜宵宮祭(宵えびす)、岡権宮司以下奉仕、市戎大國講講元 北正彰氏・夏越女保存会会長 長田淳子氏・住吉御崎講講元 友澤洋一氏・住吉踊保存後援会 田中玲子氏・福娘一〇名、各参列奉仕(翌日迄)。
一〇日 市戎大國杜例祭(本えびす)、加藤権宮司以下奉仕、前日同断。
十一日 港住吉神社新年祭、加藤権宮司以下奉仕。みずは銀行住吉支店鏡開き、当社所蔵住吉神像(市指定文化財)奉斎。不審菴初釜式、岡権宮司出席。
十二日 若宮八幡宮例祭(湯立神事)、加藤権宮司以下奉仕、宮原幸夫氏(佐備神社宮司・関西雅楽松風会)以下神楽奉仕。天機奉伺(宮中参内)、仙洞御所 秋篠宮邸 新年御機嫌伺、神武宮司参向 高階権禰宜随行。

一三日 御結鎮神事、神武宮司以下奉仕、奉射神事弓十番(住吉大社御結鎮祭大的式)大阪府弓道連盟会長 砂口勝紀氏以下奉仕。宿院頓宮新年祭、岡権宮司以下奉仕。大海神社月次祭、小出権禰宜奉仕。

一四日 四本宮並船玉社防火放水実施。

一五日 十五日祭・新年献詠祭(産経新聞社後援・末廣堂協賛)、神武宮司以下奉仕、選者 佐沢邦子氏 安田純生氏、入選者 産経新聞社 北村昭弘氏以下、入選者各参列。天位 米谷茂氏、地位 安田溪子氏、人位 野々村美南子氏。古札焼納式(こんど)、岡田禰宜以下奉仕。

一六日 セレッソ大阪必勝祈願、森島寛晃氏・小菊昭雄氏・進藤亮佑氏以下参拝。

一七日 初辰まいる(二の辰)。

一八日 十八日会、神武宮司出席(長田神社)高階権禰宜随行。半床庵初釜式、加藤権宮司出席。

二〇日 海上交通安全祈願祭、岡権宮司以下奉仕。読売新聞わいず俱樂部清掃奉仕、小出権禰宜講話。すみ文イベント、小出権禰宜参加。

二二日 大阪船主会海上安全祈願祭、神武宮司以下奉仕、大阪船主会会長 桜田治氏・近畿海事広報協会 永田昭仁氏・近畿運輸局長 金井昭彦氏・大阪海上保安監部長 伊藤卓郎氏以下参列。住吉自衛消防協議会祈願祭新年例会、高階権禰宜出席。堺市博物館出展の中神輿婦社、神輿会奉仕。

二三日 神宮新年参拝・神宮司片、神武宮司参拝、高階権禰宜随行。和歌山県西牟婁郡白浜町日神杜宮司 吉田隆氏以下敬神婦人会参拝。

二四日 神社庁第九支部会、岡権宮司・倉智滝沢権禰宜出席。

二五日 常任総代 故平岡英信氏学園葬、高井名誉宮司・神武宮司参列、高階権禰宜随行。日本相撲協会大阪場所事務所、武田河野権禰宜訪問(開設御祝)。

二六日 文化財防火デー消防訓練、宮司以下参加、住吉消防署・住吉大社自衛消防隊協力、読売新聞取材。

二七日 今主杜例祭、高階権禰宜以下奉仕。池田市亀之森住吉神社宮司 名村啓史氏参拝。

二八日 浅沢杜月次祭、高階権禰宜奉仕。日本民謡みよし会名取式、二代目会主 高堂霽州氏以下参拝。安立もちつき大会、岡権宮司・小出権禰宜参加。住吉踊保存後援会支部長幹事会、滝沢権禰宜以下出席。御祓講獅子会議、万力禰宜出席。MBSラジオ「えつことさんば」境内収録。

二九日 神社庁辞令交付式、岡権宮司・河野権禰宜出席。東粉浜

神輿会打合せ、万力禰宜・小出権禰宜出席。
三二日 定例清掃。職員会議。関西テレビ「フットマップ」境内撮影。

二月

- 一日 朔日祭、神武宮司以下奉仕。立間社例祭、太田権禰宜以下奉仕。海士子社例祭、万力禰宜以下奉仕。住吉税務署確定申告広報協力、高井名誉宮司「達」揮毫、神武宮司インタビュー、神楽女スマートフォン納税体験参加、NHK朝日新聞・毎日新聞取材。和田酒店和田佳浩氏、当社感謝状贈呈。
- 二日 帝塚山学院同窓会文化の会、小出権禰宜講師。
- 三日 節分祭、神武宮司以下奉仕。港住吉神社節分祭、加藤権宮司以下奉仕。追雛歩射式、弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家小笠原清忠氏・小笠原清基氏以下小笠原同門会奉仕。住之江区北島高砂神社節分祭、神楽女二名助勢。神武宮司、神職身分特級受贈（本日付発令）。
- 五日 シニア自然大学校講座、小出権禰宜講師。衛士社務員観境土研修旅行（岐阜県岐阜市伊奈波神社方面）岡権宮司以下引率（翌日迄）。
- 八日 愛媛県西条市石鎚神社権宮司十亀博行氏参拝。関西北前船研究交流セミナー実行委員会、小出権禰宜出席。大阪市立住吉第一中学校職場体験学習受入。
- 九日 卯之日祭、加藤権宮司以下奉仕。神社本庁神職身分特級授与式、神武宮司出席（二月三日付）高階権禰宜随行。
- 一〇日 初辰祭、加藤権宮司以下奉仕。市戎大国社月次祭、倉智権禰宜以下奉仕。宮司以下参籠。
- 一一日 紀元祭（中祭）・檀原神宮巡拝、神武宮司以下奉仕。檀原神宮紀元祭、加藤権宮司参列。
- 一二日 豊昇龍関大関昇進披露祝賀会、岡権宮司・石橋主事出席。
- 一三日 大海神社月次祭、小出権禰宜奉仕。神社庁役員会、岡権宮司出席。
- 一四日 日本相撲協会大阪場所御免祝、岡権宮司以下出席。
- 一五日 十五日祭、神武宮司以下奉仕。
- 一六日 アサヒ飲料(株)三ツ矢記念館住吉神社祈願祭、岡権宮司以下奉仕及び多田神社参拝。祈年祭献魚献種依頼、庄司西角権禰宜各所訪問。
- 一七日 御被講獅子会合、万力禰宜・西角権禰宜出席。
- 一八日 住吉武道館武道祭、加藤権宮司出席。すみよし歴史案内人の会講演会、小出権禰宜講師。神S協神道章講習会、

中野山下権禰宜参加。

一九日

十八日会（賀茂別雷神社）神武宮司出席、高階権禰宜随行。住吉大社セミナー「住吉開帳 住吉明神に和歌を奉ぐ」京都女子大学名誉教授 八木意知男氏講演。衛士社務員観境土研修旅行第二班（岐阜県岐阜市伊奈波神社方面）加藤権宮司以下引率（翌日迄）。

二〇日

海上交通安全祈願祭、岡権宮司以下奉仕。

二一日

茶道稽古始、住吉大社茶道部宮浦宗正氏・岩前宗房氏奉仕。

二二日

消防記念日表彰式、岡権宮司出席。宮司以下参籠。

二三日

天長祭（中祭）、神武宮司以下奉仕。住吉祭神輿渡御実行委員会、会長 中野喜久雄氏以下役員、神武宮司以下出席。西岩部屋、港住吉神社寄宿（三月二八日迄）。

二五日

島津忠裕氏参拝。正月奉仕者担当会、滝沢 星野権禰宜出席。吉祥殿プライダルフェア。立浪部屋、境内寄宿（三月三二日迄）。

二六日

土俵祭 降神之儀、岡権宮司以下奉仕、立浪部屋参列、テレビ大阪取材。文化財防災防犯設備工事打合せ、府文化財保護課他来社。大阪市立粉浜小学校、社会学習受入。

二七日

大阪市立住吉幼稚園・墨江幼稚園、わんぱく相撲体験、立浪部屋協力、NHK大阪局取材。広島県広島市住吉神社禰宜 森脇良佳氏参拝。社叢学会理事長 櫻井治男氏・藤岡郁氏来社（催事依頼）。堺市博物館館長 須藤健一氏・十河良和氏・宇野千代子氏来社（催事御礼）。日本相撲協会維持会員の集い、神武宮司出席。同力士会、加藤権宮司以下訪問。神社庁第九支部研修旅行（伊勢方面）倉智滝沢権禰宜参加。すみよし反橋能実行委員会、小出権禰宜出席。

二八日

浅沢社月次祭、高階権禰宜奉仕。神社庁、神武宮司訪問、高階権禰宜随行。神社庁神宮大麻暦頒布終了奉告祭・定例協議会・神社庁例祭習礼、岡権宮司参加出席。

二九日

定例清掃。職員会議。

三月

一日

朔日祭、神武宮司以下奉仕。住吉警察署協議会、武田権禰宜出席。

二日

日本相撲協会 手数入奉納、理事長 八角信芳氏・担当部長 伊勢ノ海準人氏・横綱照ノ富士関・太刀持 熱海富士関・露松 翠富士関・行司 木村容堂氏・呼出 次郎氏以下奉仕。毎日新聞・時事通信社・報道デイリー・スポーツ報知・

共同通信社・東京中日スポーツ・スポニチ・NHK・日刊スポーツ・朝日新聞・サンケイスポーツ・読売新聞・ベール・マガジン社等各取材。日本赤十字社「神社de献血」境内使用、特別朱印授与。

四日 卯之日祭、加藤権宮司以下奉仕。清風高等学校卒業証書授与式、神武宮司参列、高階権禰宜随行。

五日 初辰祭、岡権宮司以下奉仕。侍者社例祭、万力禰宜以下奉仕。東京都青梅市住吉神社宮司 梅宮貴司氏参拝。鳥取県神社庁西部支部長 門脇豊文氏以下参拝。

七日 立浪部屋激励会、神武宮司・加藤岡権宮司出席。

八日 壇使、岡権宮司・進藤権禰宜・越口社務員奉仕(奈良県橿原市 雲名梯川俣神社・畝火山口神社)。日本KFCホールディングス(株)「おかえり!カーネル」人形納式。遣唐使船模型奉納式、元長門の造船歴史館館長 柳井敏弘氏奉納、水江東穹氏立会。住吉区生根神社(神事依頼)神武宮司以下訪問。

九日 住吉連合地域活動協議会地域教育部会、小出権禰宜講師。市戎大國社月次祭、加藤権宮司以下奉仕。兵庫県たつの市揖龍地区総代会参拝。神社庁例祭 岡権宮司祭員奉仕。

一〇日 宿院頓宮崇敬会参拝旅行(多賀大社方面)古布 中川権禰宜引率(翌日迄)。

一一日 住吉大社セミナー「神話の力」日本人と日本史の源流として読む「産経新聞特別記者兼編集委員 安本寿久氏講演。神S協議会、中野山下権禰宜出席。

一二日 住吉大社責任役員会・常任総代会、神武宮司以下出席。

一三日 大海神社月次祭、小出権禰宜奉仕。春日大社春日祭、岡権宮司参列。サクラ植樹奉告祭、(株)伊藤園・(公財)日本さくらの会奉納、東粉浜幼稚園児童参加。茶道稽古。

一四日 宿院頓宮崇敬会役員会、岡権宮司以下出席。南海ぶらりたび催行。

一五日 十五日祭、神武宮司以下奉仕。大阪市立住吉幼稚園保育修了式、岡権宮司出席。故賀集啓次氏通夜式、小出権禰宜会葬。

一六日 本殿清掃。特殊神饌調製。宮司以下参籠。

一七日 神種頒賜祭、赤松種苗(株)神種奉納。御田講員参列。

折年祭(大祭)、神武宮司以下奉仕。総代 南俊光氏 今村聖三氏・御田講講元 濱田孝氏・赤松種苗(株)代表取締役社長 赤松博司氏以下参列。文楽「寿式三番叟」桐竹勘十郎氏(人間国宝)奉納。

一八日 会(檀原神宮)神武宮司出席、高階権禰宜随行。大

阪市立東粉浜小学校卒業式、高井名誉宮司出席。近畿地区中堅神職研修会(京都)倉智 庄司 山下権禰宜参加(二二日迄)。倉本和寛氏来社奉賛。

一九日 献詠俳句選者会、古賀しづれ氏・森田純一郎氏・小杉伸一路氏選考。防災設備更新工事指名競争入札。

二〇日 皇靈祭遙拝、神武宮司以下奉仕。海上交通安全祈願祭、岡権宮司以下奉仕。招魂社春季例祭、加藤権宮司以下奉仕。

神馬塚彼岸参拝、神武宮司・岡権宮司参拝、星野権禰宜随行。千度講参拝(旧中在家東之町・安立連合・東粉浜連合各地区)。東粉浜千度講、加藤権宮司・小出権禰宜参列。日本KFCホールディングス(株)カーネル・サンダーズ人形納(八日)発表、各報道。

二二日 日本曆学会総会(当社開催)会長 平井正則氏以下参拝、神武宮司・小出奥野権禰宜参加。

二四日 土俵祭 昇神之儀、岡権宮司以下奉仕、立浪部屋参列。京都市護王神社宮司 本郷貴弘氏参拝。新規採用神職研修。

立浪部屋千秋楽祝会、神武宮司・岡権宮司出席。西岩部屋千秋楽祝会、加藤権宮司・名村権禰宜出席。吉祥殿ブライダルフェア。

二五日 (学)浪速学院知事会評議員会、神武宮司出席。中堅神職研修(神宮道場)高階 小出権禰宜参加(二九日迄)。

二六日 新規採用神楽女研修(三一日迄)。

二七日 草薙会近畿支部役員会、万力禰宜出席。アサヒ飲料(株)三ツ矢の日参拝。

二八日 浅沢社月次祭、倉智権禰宜奉仕。

二九日 住吉踊童女参拝ツアー(椿大神社方面)滝沢権禰宜以下引率。

三〇日 宿院頓宮桜祭、岡権宮司以下奉仕、神武宮司参列。辞令伝達。職員会議。

三一日 定例清掃。俳誌「未央」創刊五百号記念祝賀会、高井名誉宮司・小出権禰宜出席。土本益美氏来社奉賛。

四月

一日 朔日祭、神武宮司以下奉仕。辞令・権禰宜 高階知宜・中野一樹を禰宜に、禰宜 岡田将男・逸見志志を権禰宜に、

主事補 白井友江を主事に。川俣颯太郎を神人に、西浦美々里・藤澤萌音を神楽女見習に各任する。奉職奉告祭。

二日 五社春季例祭、川畑禰宜以下奉仕。住吉警察署長 林秀樹氏以下来社。

三日

松苗神事・神武天皇祭選擇、神武宮司以下奉仕。岸の姫松講元大賀信幸氏以下講員、献詠俳句選者古賀しぐれ氏・森田純一郎氏・小杉伸一路氏、入選者参列。天位平敦子氏・地位高石泉氏・人位野崎精子氏。住吉警察署警備課内藤望氏来社。

四日

住吉区長 橘隆義氏以下来社。卯之日参道・誕生石前附近埋設排水工事。

五日

大阪市立東粉浜小学校入学式、岡権宮司出席。

六日

正印殿祭、加藤権宮司以下奉仕、神武宮司参列。兵庫県加西市北条住吉神社春季例大祭助祭、岡権宮司奉仕。住吉大社前郵便局、清掃奉仕。日刊スポーツ、境内撮影。BS一二三団会議、西角権禰宜出席。

七日

BS一二三団上進式参拝。

八日

近畿の式内社を顕彰する会役員会、岡権宮司出席。

九日

卯之日祭、岡権宮司以下奉仕。種貸社例祭、武田権禰宜以下奉仕。住吉消防署副署長 原田勝美氏以下来社。正月警備反省会、神武宮司以下出席。神社庁第九支部役員会、岡権宮司以下出席。升の市実行委員会、万力禰宜出席。

一〇日

初辰祭、加藤権宮司以下奉仕。港住吉神社楠玉稻荷社例祭、加藤権宮司以下奉仕。同会計監査会、加藤権宮司出席。市戎大國杜月次祭、逸見権禰宜以下奉仕。大阪市立住吉幼稚園入園式、岡権宮司出席。水江東穹氏個展、高井名誉宮司・神武宮司観覧、太田権禰宜随同。

一一日

住吉踊保存後援会会長 久保道伸氏就任。同支部長会議、滝沢権禰宜以下出席。神社庁辞令交付式、高階中野禰宜・古館権禰宜出席。

一二日

神社庁教化委員会、岡権宮司出席。中堅神職研修(神宮道場)小出武田権禰宜参加(一六日迄)。大阪市立住吉幼稚園、御田レンゲあそび。

一三日

大海神社月次祭、西角権禰宜奉仕。すみよし博覧会「レングデすみ博」境内催行(翌日迄)。

一四日

鉾社例祭、万力禰宜以下奉仕。

一五日

十五日祭、神武宮司以下奉仕。おいとしぼし社春季例祭、高階禰宜以下奉仕。神稜講定例参拝。

一六日

靖國神社、高井名誉宮司参拝、高階禰宜随同。多田神社宮司故福本賀範氏、宮崎権禰宜弔問。若柳吉翔氏来社、御田植打合。四天王寺聖霊会舞楽装束貸出、庄司権禰宜助勢。

一七日

賀茂別雷神社宮司 高井俊光氏・同名誉宮司 田中安比呂氏参拝。どんぐり保育園、御田レンゲあそび。

一八日

宿院頓宮會計監査会、岡権宮司出席。どんぐり保育園、御田レンゲあそび。

一九日

十八日会(大神神社)神武宮司出席、高階禰宜随同。

二〇日

海上交通安全祈願祭、加藤権宮司以下奉仕。島津忠久公誕生記念祭、岡権宮司以下奉仕、島津忠裕氏以下参列。兵庫県丹波篠山市黒石住吉神社宮守 藤本嘉彦氏参拝。(学順)天学園理事長 渡辺孝藏氏来社。タイ王国ツアー・フランス共和国ツアー受入。

二一日

港住吉神社氏子総代会、加藤権宮司以下出席。大阪市自然史博物館学芸員 長谷川匡弘氏来社。住吉大社浪曲寄席(住吉武道館、岡権宮司以下参加)。

二二日

住吉大社セミナー「北前船がつなぐ大阪住吉大社と港町新潟―石燈籠と住吉祭―」(公財)大阪府文化財センター理事 長坂井秀弥氏講演。住吉公園事業会議、小出権禰宜出席。新潟市白山神社宮司 小林慶直氏参拝。四天王寺聖霊会舞楽大法要、東野囀託奉奏。

二三日

神道青年全国協議会創立七十五周年記念大会、加藤権宮司出席。宿院頓宮常任総代会・崇敬会役員会、岡権宮司出席。

二四日

聖愛クロス保育園住吉園長 森創氏来社。

二五日

職員健康診断。国庫補助事業防災設備更新工事安全祈願祭。

二七日

夏越女保存会打合、長田淳子氏来社。

二八日

浅沢社月次祭、高階禰宜奉仕。宮司以下参籠。吉祥殿ブライダルフェア。

二九日

昭和祭(中祭)、神武宮司以下奉仕。御田植神事打合会、神武宮司以下出席。

三〇日

定例清掃。祭儀部会議。職員会議。大阪市立自然史博物館学芸員 長谷川匡弘氏御田植物相調査。全国弓道大会前日直会、弓馬術礼法小笠原教場一門・大阪府弓道連盟有志・神武宮司以下出席。

勅撰集 神祇歌の中で

はじめに

平田篤胤は『歌道大意伝』（『全集』所収本）に、歌とは何か、を説いて

歌ハ訴^{ウツトフ}也、歌フ也。

天神・地祇・海神トイヘトモ通^ツレシ之ヲ、而感応納受。有^ニ君臣上下和睦之道^一、於是^{コ、ニ}有^ニ疾病諸災^一。依^ニ此德^一而退散ス。古今其例頗多シ。可^レ仰可^レ尊也矣。

と言う。これを承けて佐賀藩医松隈亨安『和学知辺草』（中尾・白石・中尾・村上編、文学通信社、令和五年刊）には

歌とは、うったへ也。うたふ也。思ひ／＼に其意をうたへるもの也。古しへは、いかなる節調子にてうたひしにや。其ふしはかせ、今の世には伝はらず。長歌、短歌といふも、うたへるふしの長きと短きにていへる也。句の数には拘らぬ事也。

と言う。

『歌道大意伝』はさらに続けて

○和歌三神之御事^并和歌三聖之御事

○底筒男命^{ソコツツノミコ}

○中筒男命^{ナカツツノミコ}

○表筒男命^{ウヘツツノミコ}

已上和歌之三神也、則住吉大神是也、

○柿本人麿
○衣通姫尊

○山辺赤人

已上和歌之三聖也、亦和歌三神トモ申ス、住吉大神三座ニ対シテ称ル時ハ三聖ト申奉ルナリ、不可混同矣、

○三筒男神^{ミツツノミコ}—住吉大明神「夜やさむき衣やうすき」歌

○衣通姫命^{マタ}—玉津嶋大明神「日の本は天津日繼の」歌

○柿本人麿—柿本大明神「あし曳の山ちはしらす」歌

右三神和歌、之好士毎朝尊敬而殊尊詠拝唱すへし、

（右、漢字ヲ現代通行字体ニ改メ、平仮名ヲ片仮名ニ改メ

タ部分ガ有ル。）

とまとめている。

篤胤に依れば、歌は訴えであり、それは如何なる神も納受する。就中、住吉大明神は顕著にて「和歌三神」と崇めるべき存在である、と言うことになる。そして、住吉大明神とは「三筒男命」に対しての謂いである。

以下に本稿が考えようとするのは、この住吉大明神を和歌の神と信仰するメカニズムの種種相についてである。骨子は令和六年二月十九日、住吉セミナーにて「住吉開帳 住吉大明神に神祇歌を奉ること」と題してお話し申し上げた。

一 勅撰集神祇歌の中に

第一代勅撰和歌集『古今和歌集』（以下「古今集」と呼ぶ）には「神祇部」なる部立は無い。しかし神祇歌が無い、と言うわけではない。例えば、巻第十七、雑歌上の905・906番歌

題しらず

よみ人しらず

我みても久しくなりぬ住の江の岸の姫松いくよへぬらん

住吉の岸の姫松人ならばいく世かへしとはまし物を

は、『伊勢物語』117段と関わる。すなわち、伊勢物語成長論と密接するのであるが、それは置いても住吉社参詣時の歌と言つてよい。そして猶重要な点は、この歌に感応して住吉明神が現形し歌を返していることである。神詠返歌は、『新古今集』巻第十九、神祇歌、1856番歌・1857番歌として

いかばかり年はへねども住の江の松ぞふたび生ひかはりぬる

この歌は、ある人住吉にまうでて、人ならばとはましものを住の江の松はいく度おひかはるらむ、とよみて奉りける御返しとなんいへる

むつまじと君はしらなみ水がきの久しき代よりいはひそめてき

伊勢物語に、住吉に行幸の時、おほむ神現行したまひてとしるせり

とあり、『新統古今集』巻第廿、神祇歌、2077番歌
衣だにふたつありせばあかはだの山に一つはかさま
しものを

この歌は住吉の御歌となる申しつたへたる
とあるのがそれである。

すなわち、住吉大明神は歌に感応し、現形し、返歌することがあった神なのである。あるいは御射ら^{みすか}の訴えを、『新古今集』巻第十九、神祇歌、1855番歌に

夜やさむき衣やうすきかたそぎのゆき合ひのまより

霜やおくらむ

住吉御歌となん

と歌で告げ、『玉葉集』巻第廿、神祇歌、2731番歌に
伊予の国うわの郡の魚までも我こそはなれ世を救ふ
とて

この歌は、住吉の社へいやしき男の詣りて侍りけるが、魚食したる身にてかかる所に詣りたる事はあしきことにやとおそれ思ひてまどろみたる夢に、かくなんつげさせ給ける

とある如く、人を救うべく歌にて告げる。

斯く歌の形式を以て人と交流する住吉大明神なればこそ、世人は歌の神と崇めたのである。

二

ところで、住吉大明神に祈りを奉げる場合、「松樹」を詠うことが多い。この住吉の松は、『続後撰集』巻第九、神祇歌、560番歌に

後法性寺入道前関白家百首歌に、
宜秋門院丹後
神代より植ゑはじめけん住吉の松は千年やかぎりざ
るらん

とあり、『続千載集』巻第九、神祇歌、859番歌に

建長五年、住江に御幸侍りて、行旅述懐といふ
事を講ぜられ侍りけるに、よませ給うける

後嵯峨院御製
跡たれし神代にうゑば住吉の松も千年をすぎにけらしも

とある如く、植樹したものであると認識して居り、その植樹あるいは播種は『続千載集』巻第九、神祇歌、861また862番歌に

建長五年、住江に御幸侍りて、行旅述懐といふ
事を講ぜられ侍りけるに、

前右兵衛督為教

住の江や今日のみゆきをまつとてぞ神も千年の種は
まきけん

山本入道前太政大臣

住吉の松の千年もみゆきする今日のためとや神はう
まきけん

とある如く、住吉大明神御手植えのものと講釈そして
認識が存在したことを示している。

この大明神御手植えの松木は、何も御手植え木そのま
までなくともよい。『新古今集』巻第十九、神祇歌、1856番
歌

いかばかり年はへねども住の江の松ぞふたたびおひ
かはりぬる

この歌は、ある人住吉に詣うでて、人ならばとは
ましものを住の江の松はいく度おひかはるらん、
とよみてたてまつりける御返しとなんいへる

と、御神御自身詠われている様に「松の十返り」が信じ
られていたからである。この事は、「代々」と認識され子々
孫々に継がれる事を願う俗意にも適うものとなる。

そればかりではない。御神御手植えの松樹となれば、
当然全体的構図も御考えになられたであろうところ、絵
画にも描かれる住吉社の景観は、御神が意識なされたこ
ころのものということになるう。

〈参考〉

勅撰集神祇部入集詠「住吉松」歌の主題

長寿——拾遺抄	1167千載	1263続後撰	554	556	558	560	561
続古今	728	729	732	733	続拾遺	1439	1440
続千載	859	860	862	続後拾遺	1329	1330	1332
新千載	995	新拾遺	1440	1444	新後拾遺	1531	新統古今
祈言葉——続拾遺	1440	新後撰	741	742	続千載	863	864
新拾遺	1445	新統古今	2133	2138	新千載	995	
手向草——続拾遺	1440	新後撰	736	続千載	863	新拾遺	1444

三 住吉大明神の出現

住吉大明神は、日向国小戸の橘の櫛原に出現なされた。
『日本書紀』神代巻は次の如くに伝える。

伊弉諾尊、既に（黄泉国から）還りて、乃ち追ひて悔
いて曰はく、「吾前に不須也凶目き汚穢き処に到る。
故、吾が身の濁穢を滌ひ去てむ」とのたまひて、即
ち往きて筑紫の日向の小戸の橘の櫛原に至りまして、
祓ぎ除へたまふ。遂に身の所汚を盪滌ぎたまはむと
して、乃ち興言して曰はく、「上瀬は是太だ疾し。下

瀬は是太弱し」とのたまひて、便ち中瀬に濯ぎたまふ。
因りて生める神を、号けて八十枉津日神と曰す。次
に其の枉れるを矯さむとして生める神を、号けて神
直日神と曰す。次に大直日神。又海の底に沈き濯ぐ。
因りて生める神を、号けて底津少童命と曰す。次に
底筒男命。又潮の中に潜き濯ぐ。因りて生める神を、
号けて中津少童命と曰す。次に中筒男命。又潮の上
に浮き濯ぐ。因りて生める神を、号けて表津少童命
と曰す。次に表筒男命。凡て九の神有す。其の底筒
男命・中筒男命・表筒男命は、是即ち住吉大神なり。

（岩波文庫所収本に依る。ルビの大半を略す。傍線
を私に付した。）

右部分は、勿論『住吉大社神代記』にも見える。そして、
平田篤胤『歌道大意伝』の指摘がある部分でもある。

ここに住吉大明神が出現なさった旨、明確に記されて
いる。これを承けて、『続古今集』巻第七、神祇歌、727番
歌に

光俊朝臣よませ侍りける住吉社三十首に、神祇を
卜部 兼直

西の海やあはきの浦のしほよりあらはれいでし住
吉の神

とあり、『新後拾遺集』巻第十九、神祇歌、1529・1530番歌に
百首歌たてまつりし時、神祇 権中納言為重
あらはれしもの汐路は知らねども今住吉も浦風ぞ

吹く

津守国量

橘の小戸の塩せにあらはれて昔ふりにし神ぞこの神と詠われもしている。かく詠われ住吉大明神の出自が問われれば問われる程に重度を増すのは、住吉大明神が八十枉津神（まが枉れる神、凶神）・神直日神・大直日神（まが枉れるを矯す神）に次いで出現したと伝えている点にある。すなわち、住吉大明神は、伊弉諾尊の身についた汚穢（きたないもの）を祓ぎ除へ給ふ現場に出現なさつたのである。故に、「住吉神は、祓ぎ除への神である」と信仰する。「興言（言上げ）」が正しく作用されたか否かを看届けられたのである。

この「言上げ」の正邪を判定する力こそが和歌（訴え）の正否を問う力であり、二条為世『延慶両卿訴陳状』（日本歌学大系所収本）が

彼卿（為兼）所立申者邪也。正者神之所受也。邪者神之所不受也。（中略）為兼卿所勸請一之霊神、天照太神、祖神春日并住吉明神、不_レ受_二邪義_一。已驗註灼然者也。

と、『三社託宣』の如く謂うのはこれである。

かくして、『新千載集』巻第十、神祇歌、995番歌

等持院贈左大臣家にてよみ侍りける歌の中に、
おなじ心を

藤原長秀

住吉の松のことのはかはらずは神代にかへれ敷島の道
『新拾遺集』巻第十六、神祇歌、145番歌

神祇

法印雲禅

敷島の道をは道とまもらなんよに住吉の神ならば神
などと仰がれることになる。

四 『源氏物語』では

須磨へ流離した源氏は、弥生巳の日祓へを為そうとして、

八百よろづ神もあはれと思ふらむ犯せる罪のそれと
なければ

と詠ったところ「にはかに風吹き出でて、空もかきくれぬ」状況となり、「御祓もしはてず、立ち騒ぐ」有様であった。そしてまたの日には

いともの騒がしければ、いろいろの幣帛捧げさせたまひて、「住吉の神、近き境を鎮め護りたまふ。まことに迹を垂れたまふ神ならば助けたまへ」と、多くの大願を立てたまふ。

と。ここに源氏が問われているものは、言上げの正否であり、「助けたまへ」と訴えることに依りやがて赦されることになる。「犯せる罪のそれとなければ」（不遜）から「助けたまへ」（哀訴）へと変化した言動こそが、正邪判定の質であつたのであろうか。

五 『土佐日記』の中で

『土佐日記』（橋本光秋・石田道三郎校訂『校訂土佐日記読本』大阪書房文海堂、明治三十五年第五版に依る）、二月五日条は

五日、けふからくして、和泉の灘より小津のとまりをおふ。松ばらめもはるくなり。かれこれ苦しければよめる。

ゆけど猶ゆきやられぬはいもがうむ小津の浦なる
岸の松原

かくいひつゝくるほどに、船とく漕げ、日のよきにもよほせば、かちとり、ふな子どもにいはいく、
御船よりおほせたぶなりあさぎたのいでこぬさきに綱手はやひけ

といふ。このことばの、歌のやうなるは、かちとりのおのづからの詞なり。かちとりはうつたへに、われ歌のやうなる事いふにもあらず。きく人のあやしく歌めきてもいひつるかな、とてかきいだせれば、げに三十文字あまりなりけり。けふ浪なたちそと、

人々ひねもすに祈るしるしありて、風浪たゞず。今しかもめむれ居てあそぶ所あり。京の近づくよろこびのあまりに、ある童のよめる。

祈りくるかざまと思ふをあやなくもかもめさへ
たゞ浪とみゆらん

といひてゆく間に、石津といふ所の松ばら、おもしろくて浜べとほし。又住吉のわたりを漕ぎゆく。ある人のよめる。

いま見てぞ身をばしりぬる住の江の松よりさきに
我はへにけり

こゝにむかしつ人の母。ひとひかたときも忘れねばよめる。

住の江に船さしよせよ忘れ草しるしありやとつみてゆくべく

となん。うつたへに忘れなんとはあらで、恋しきこゝちしばし休めて、またも恋ふる力にせんとなるべし。かくいひて、ながめつゝくる間に、ゆくりなく風吹きて、こげどもくしりへ退きにしぞきて、ほとくしくうちはめつべし。かちとりのいはく、この住吉の明神は、れいの神ぞかし。ほしき物ぞおはすらん。とはいまめくものか。さて幣をたてまつり給へといふ。いふにしたがひて、幣たてまつる。かくたてまつれども、もはら風やまで、いや吹きに、いや立ちに、風浪のあやふければ、かちとり又いはく、幣には御心のゆかねば、御船も行かぬなり。猶、うれしと思ひ給ふべき物たてまつり給へといふ。又いふにしたがひて、いかゞはせんとて、眼もこそふたつあれ、たゞひとつある鏡をたてまつるとて、海にうちはめつれば、いとくちをし。さればうちつけに、海は鏡のごとなりぬれば、ある人のよめる歌。

ちはやぶる神の心を荒る、海に鏡を入れてかつ見
つるかな

いたく住の江の忘草、岸の姫松などいふ神にはあらずかし。目もうつらうつら、鏡に神の心をこそは見

つれ。かちとりの心は、かみの御心なりけり。
とある。長文である。海の荒れたるに對し御幣を捧げて祈るに験なく、次に鏡を捧げたらばたちまちに凧いだ、というのである。

鏡は、天照太神の神勅に著名であるが、北畠親房『神皇正統記』（岩波文庫所収本）には

鏡は一物をたくはへず。私の心をなくして、万象を
てらすに是非善悪のすがたあらはれずといふことな
し。そのすがたにしたがひて感応するを徳とす。こ
れ正直の本源なり。

としている。かかる意味に於いて、正邪判定を任として出現なされた住吉大明神が、鏡を捧げ物とする祈を受け入れぬはずはないのである。世上に言う如く、「住吉大明神が金品を欲ひている」等の理解はいかがであらうか。

確かに御神詠では、

夜や寒き衣やうすきかたそぎのゆきあひの間より霜
やおくらむ
(新古今集一八五五番歌)

衣だに二つありせば赤肌の山に一つはかさましもの
を
(新統古今集二〇七七番歌、伝為相筆本『伊勢物語』)
の如く詠われており、御衣を欲し御求めのようにもきこえる。しかしそれではあまりに味気無い事である。

六 「住吉の松」は依代（馮代）なるか

神社の御神木（霊木）は崇重畏敬の意を以て仰がれてきた。住吉社の場合は「松」である。この松をしるとして天上界から神が天下り給うという。

住吉大明神の場合、これは無いのではないか。住吉大明神は「筑紫の日向の小戸の橘の憶原」に御出現給い、海中からの御出現である。『続後撰集』巻第九、神祇歌、551番歌・553番歌に

住吉社にうたふべき求子の歌とて、神主経国よ

ませ侍りけるに

前中納言定家

住吉の松が根あらふしき波にいのるみかげは千世もかはらじ

おなじ社に詣でてよみ侍りける

前太政大臣

松が根に波こす浦の宮所いつ住吉とあとをたれけん
とあり、『続拾遺集』巻第二十、神祇歌、1438番歌に

住吉に詣でてよめる

西行法師

住吉の松が根あらふ波の音をこずゑにかくる沖つ汐風
と読まれてあるは、住吉神御出現の記憶ではないか。

また、住吉大明神は、三韓から帰りまして、

亦、表筒男、中筒男、底筒男の三軍神、誨へて曰はく、
「吾が和魂をば宜しく大御栄の天津の湊中倉の長岡峽
国に居さしむべし。便ち往来ふ船を看護さむ。」

（『住吉大社神代記』第三一〇行）

とお教えになつて現在地に御鎮座になつたのである。こ
れを承けて『古今著聞集』には

慈覚大師、如法經書き給ひける時、白髪の老翁杖に
たづさはりて、山によち上りけるが、「あなくるし、
内裏の守護といひ、この如法經の守護といひ、年は
たかくなりて苦しう候ふぞ」とのたまひけり。「誰が
御わたり候ふぞ」と尋ね申されければ、「住吉の神な
り」とぞなのり給ひける。

と。すなわち、何や彼やと多忙だと仰せられる。ここに
は松を以て往来する神の姿はない。住吉大明神は住吉社
に常住なされていたのではあるまいか。その上で「衣が
一着しかない」との訴えと考えてみたい。

その上で、海岸線に立並ぶ松は住吉神が往来う船を看
護る姿を表し、津守浦の松は来る人を出迎え、社殿に添
う松は神そのもの、と見るべきと考える。謡曲『高砂』
はこのメカニズムを見事に具現化していると謂えよう。

おわりに

住吉大明神は松樹の色と共にあり、このことは謡曲『翁』
『高砂』にまとめられている。昏遂の世を正さんとする精
神の顕われであろうか。統群書類従452『親房卿古今集序註』
は「いきとしいけるもの。いつれか歌をよまさりける。」
に註して

後三条院の御位をりさせ給て後。住吉に御幸ありけ
るに。住吉の神も哀と思ふらんむなしき舟をさして
きたれは。とよませ給ひけり。おりるの御門をは虚
舟にたとへたる本説あれは。御歌からもやさしく。
事の心も備りたれと。時の人虚舟をさしてきたれは
と云御製こそいま／＼しけれと申けるに。はたして
いくほとなくてかくれたまふと云々。然は身のため
世の為にもあしかるへく。いま／＼しかるへきこと
をは。返々不可詠出者也。

という。北畠親房は

身のため世の為にもあしかるべく、いまいましかる
べきことをば、返々不可詠出者也

を主眼とするが、住吉大明神は御製に潜む邪心をこそ問
題にしたということか。いづれにしても神明恐る可し。

住吉大明神の信仰が、和歌の神という条、実はその背
後に大きな人間世界の正邪を有していることを確認した
のである。勅撰和歌集神祇歌中の住吉歌は、総じて「苦
難を経て、松が操を呈するが如く、身心健やかであれ」
と詠うものである。

（京都女子大学名誉教授）

令和六年

短歌

住吉大社 新年献詠祭 (二月十五日)

後援…産経新聞社 協賛…末廣堂
選者…安田 純生、佐沢 邦子、香川 ヒサ

天位

年越のそば打ち終えて裏口で店主はひとり肩を揉みいる

大阪府 米谷 茂

(評) 店主のほとなさっている様子と新年への思いも感じられる。

地位

雪どけの雫の音に和みつつ春のキャベツをさはさは刻む

青森県 安田 漢子

(評) 此のひと時の平穏が嬉しく、春待つ気持も伝わってくる。

人位

近江路の細き流れに芹摘めば悴みし手に春の香うつる

大阪府 野々村 美南子

(評) 小さな旅の様子、春の七草の一つである芹を摘み乍ら慈しむ命。

佳作

若夫婦越しきしばかり輪飾りを童話のやうな門扉にかざす
沈丁花のかおりただよう道選びただのんびりで行けるしあわせ
初荷なる千の車を積みし船祝詞いだき波止をはなるる
山並を隠す朝雲け破りて初日登りしふるさとの町
百頭の牛の搾乳終へる頃畜舎の窓より初日射し込む
いぬふぐり先ず咲き土筆路の螢と畑の畦にいでて春告ぐ
初日さす池を鏡に巫女つどひ奉納まへに舞ひの手直し
前頭部当てつつくぐる台所ののれんの裾をゆつくり洗う
御熊野の浦の浜木綿見し日より君に恋するひとりとなるる
リュウグウのツカイのような雲二つ並びて泳ぐ冬晴れの空

埼玉県 横島 茂
大阪府 北川 養子
三重県 広岡 光行
東京都 西川 憲昭
北海道 藤林 正則
大阪府 向井 洋一
大分県 佐藤 信二
奈良県 大岩 根るり子
兵庫県 勝井 典子
山口県 梅田 甲代子

(総評) 何とかより良い社会へと念ずる心の歌やご家族への愛の歌も多くありました。(佐沢 邦子)



俳句

住吉大社 松苗神事

(四月三日)

協賛…末廣堂
 選者…古賀しぐれ、森田純一郎、
 小杉伸一路

未来への言伝てとせん苗木植う

兵庫県 平敦子

〔評〕地球温暖化の危惧される中、植樹は自然保護には最も大切なこと。そのことを「未来への言伝てとせん」の措辞がぴったりと言い当てている。住吉大社に続く松苗祭の畏敬を感じさせる一句である。

復興へ祈願の一步植樹祭

大阪府 高石泉

〔評〕正月早々の能登半島地震。東日本大震災以来頻繁に災害の起こる日本。どうか早き復興となりますようにと祈りつつの植樹祭。自然の復活により地震よ鎮まれという願いが感じられる。

松の苗木つ境内熊野舞

兵庫県 野崎精子

〔評〕「熊野舞」は住吉大社継承の神楽。松苗祭の継承とその祈の熊野舞の神楽が今も続いていることは尊いこと。未来へと繋いでいって欲しい神事である。

佳作

能登復興願ふ一念苗木植う	兵庫県	橋本允子
海神の松嶺とはに苗木植う	兵庫県	稲家民枝
受け継ぎし祈りのこころ苗木植う	兵庫県	尾崎吾郎
松苗や地球を包む森となれ	大阪府	田中文之祐
戦なき世に大樹たれ苗木植う	大阪府	合田マサル
日の永し摂社末社を巡りても	兵庫県	山内茉莉
守り継ぐ美しき言の葉百千鳥	大阪府	山田佳音
大神の杜囃すごと百千鳥	和歌山県	山本容子
イヤリング指輪外して苗木植う	兵庫県	猪谷信子
丹田に込める一畝苗木植う	大阪府	長尾みちる



(総評)

今年早々に起った能登半島大震災。ロシアのウクライナ侵攻は続き、イスラエルパレスチナ紛争も続く混沌の世。その世相を反映する俳句が多く見受けられた。住吉大社の自然信仰を礼讃する句に共感を覚えた。穏やかな世を願うこと切である。

(古賀しぐれ)

短歌と俳句の献詠募集

【要領】作品は1人様ごとに短歌2首あるいは俳句2句まで
 詠題は自由、神前にふさわしい自作の未発表の作品に限る

【書式】楷書(ふりがな)で、郵便番号・住所・電話番号・氏名(ふりがな)

【注意】判読不能の作品や、神前に相応しくない内容、要領によらない投稿は選考の対象から除外することがあります

【締切】新年献詠祭(短歌)11月末日 松苗神事(俳句)2月末日
 観月祭(短歌・俳句)7月末日 ※当日消印有効

【表彰】選考後に通知、祭典招待、当日に神前奉納および賞状贈呈

【宛先】〒558-0045 大阪市住吉区住吉2丁目9番89号 住吉大社献詠係

衣裳室のこだわり

婚礼の衣裳



わたしたち住吉大社吉祥殿 衣裳室の大切な役割は、婚礼や宮参り、七五三、成人式などの人生儀礼を通して、日本の伝統文化である着物の良さを後世に受け継いでいくことです。今回は、婚礼衣裳のこだわりを紹介します。

国宝に相応しい衣裳の品揃え

歴史と伝統のある住吉大社では、国宝と重要文化財に指定の本殿・幣殿で挙式をおこなっています。それに相応しい衣裳として、「住吉大社の本殿とロケーションに映える衣裳」にこだわり、職人の伝統技術を駆使した希少価値の高いものを中心に取り揃えています。





一点ものの衣裳

純金やプラチナを織り込んだ白無垢や色打掛など品揃えは、どれもが高品質でデザインに妥協しない一点ものばかり。オリジナル衣裳の制作は、下絵から打合せを重ね、完成まで一年以上かかることも。なかでも、住吉大社の社紋「花菱」柄を織り込んだオリジナル白無垢は人気があります。

新婦様の前姿と後ろ姿、柄の大きさと色、お顔周りの柄の種類と分量、裏地の色など、一本一本糸の種類にもこだわりを持った衣裳に仕上がっています。

スタッフ全員が意見を交わして制作に携わっています。新婦様から直接ご要望をうけたまわり、新作の衣裳に反映させるためには、伝統を大切にしながらも現代のニーズへつなげるように心掛けています。

お仕立てとファーストレンタル

ご要望により、反物からお選びしてお仕立てをするファーストレンタルも行っています。

お母様やお婆様と一緒に衣裳合わせをされる方も多く見られます。お取り寄せの反物を手にとり、ご自身の肩に掛けてみて、質感や色合いを感じつつ「一から衣裳を作る」感覚を味わえます。その時間はきっと素敵な幸せな思い出になることでしょう。

紋付袴

新郎様を豊かに彩る紋付袴もその取り揃えにこだわっています。

ベージュシックな黒の紋付をはじめ、白、紺、緑、水色、シルバーなど、何百色とある色見本の中から映える色目を選んでいきます。

さらに、社紋「花菱」を刺繍した羽織に、吉祥殿オリジナルの文様を織り込んだ袴や、シンプルなデザインの縦縞模様の袴では、縞の太さや間隔など細部にこだわりを詰め込んでいます。

お二人が運命の一着と出会うまで、スタッフ全員で寄り添って取り組んでいます。人生の節目、大切な日をお手伝いできることは私たちの喜びです。

コロナ禍を経た今、新郎様新婦様の価値観にも変化を感じています。伝統を大切にしながら、しかし固定観念にとらわれず、時代に求められる衣裳のご提案を続けてまいります。

＊ 住吉大社の ＊

ししゅう

刺繍と朱印紙



開運 朱印帳 初穂料 三、〇〇〇円

その月に斎行される神事や神社に縁ある図柄を描いたご朱印紙を、毎月数量限定で授与しております。

美濃和紙に色とりどりの糸で丁寧に織り上げられた住吉さんの刺繍ご朱印紙、月参りやご参拝の証にお受けください。

■ 初穂料 一枚一、〇〇〇円

■ 各月、用意した枚数が無くなり次第終了いたします。

■ 新春限定の干支の刺繍は、その年の干支(住吉人形十二支をモチーフにした)の図柄となります。

■ 九月以降の図柄は、現在考案中です。

令和六年（二〇二四）

下半期の祭事暦

7月7日（日）
星宮例祭

末社星宮

7月15日（月）
汐汲行事

大阪市・南港沖

7月21日（日）
神興洗神事

住吉公園

7月30日（火）
宵宮祭・還霊祭

末社斯主社

7月31日（水）
夏越祓神事

第一本宮

8月1日（木）
例大祭（大祭）

第一本宮

8月2日（金）
波御祭 発興・頓宮祭

第一本宮・宿院頓宮

8月7日（水）
飯匙堀祓神事・還興

飯匙堀・第一本宮

8月9日（火）
人形流

堺市・堺港沖

8月17日（月）
薄墨社例祭

末社薄墨社

8月19日（水）
楯杜例祭

末社楯杜

8月22日（日）
志賀神社例祭

第一本宮・反橋

9月1日（火）
観月祭

第一本宮・反橋

9月9日（月）
児安社例祭

末社児安社

9月17日（水）
皇霊祭通拝

神楽殿

9月19日（木）
招魂社秋季例祭

末社招魂社

9月22日（日）
大歳社例祭

末社大歳社

9月30日（火）
大海神社例祭

摂社大海神社

10月1日（水）
おとしぼし社秋季例祭

おとしぼし社

10月3日（木）
龍杜例祭

末社龍杜

10月9日（水）
御田刈初・神嘗祭通拝

五月殿

10月13日（日）
宝之市神事

第一本宮

10月15日（火）
后土社例祭

末社后土社

10月16日（水）
船玉神社例祭

摂社船玉神社

10月17日（木）
明治祭（中祭）

第一本宮

10月19日（土）
五社秋季例祭

末社五社

10月21日（月）
塩使

雲名梯河俣神社・
畝火山口神社

11月3日（日）
七五三祝祭

第一本宮

11月4日（月）
新嘗祭（大祭）

第一本宮

11月15日（金）
煤払式

四本宮

11月23日（土）
大祓

五月殿前

12月6日（木）
除夜祭

第一本宮

12月31日（火）
※朔日・卯之日・海上交通安全祈願祭・摂末社月次祭などは省略。

※祭礼の時間や神賑行事・奉納行事は変更の場合があります。



元祖 かつま焼 (登録商標)

かつま焼はその昔

住吉の物産であつたかつま芋を

形どつたなにわの味、

昔からの銘菓であります。

十勝小豆を精製した

淡泊な味のこしあんを、

秘伝の皮で包み、

心を込めて、一本一本竹串に刺して

焼き上げております。

幾星霜の老舗の味をご賞味ください。

摂津一之宮 住吉大社御用達御神饌調達処

御菓子司 株式会社 東廣堂

本店 大阪市住吉区東粉浜三丁目一ノ二一四

TEL 06(6677)4428

06(6677)8130

FAX 06(6677)3019

毎週火曜定休日

第42号の表紙 住吉祭礼図屏風（部分）

堺市博物館所蔵、堺市指定有形文化財。近世初期の屏風絵。当時は旧暦六月晦日におこなわれた住吉祭の神輿渡御を描く。表紙の画像はその一部で、神輿が反橋をわたる場面を描いたもので、往時の様子がうかがえる。

安産祈願

妊娠5ヶ月目に赤ちゃんを授かった御礼と
安らかに生まれますよう神様にお祈りいたします

戌
の
日
まいり

住吉
大社



住吉大社